



国労本部・第188回拡大中央委員会が1月27日10時より新橋交通ビルで開催されました。中央委員・14名から職場の問題、春闘の取り組み、組織拡大など発言がありました。

開会あいさつでは、佐々木副委員長から「さらなる課題に対し闘い取り組みを進めていこう。JR30年、検証委員会、安藤先生から報告があった。国民を取り巻く状況など、国労の姿を内外に示していく運動を進めていく。そして春闘



NO. 936
発行
2018年
2月23日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
加藤 秀夫
編集責任者
教 宣 部

組合活動・目に見えるものに

第188回
拡大中央委員会
1月27日開く

を取り組んでいこう



9時50分現在、中央委員2/3以上29名の出席を確認され、委員会が成立したことが宣言されました。議長団には東京・横倉委員、近畿・平野委員が選出されました。

その後、菊池委員長のあいさつ・安藤先生からJR30年の検証委員会の報告がありました。

詳しい内容については、後ほど

春闘・重点統一要求

- ① JR各社における定期昇給の完全実施と2018年4月1日時点における基本給に12000円のベースアップを求める。
- ② JRグループ会社における定期昇給の完全実施。会社における制度のない定期昇給制度の確立。
- ③ グループ会社においてもJR本体の要求を基本とし、時給制度社員については、1500円を目標に、当面は1000円以上の実施を求める。
- ④ 初任給の改善。第2基本給廃止。成果主義賃金制度反対。公正な人事・賃金制度の確立。
- ⑤ 人減らし「合理化」反対。安全・安定輸送の確立。業務委託・外注化施策の見直し。出向制度の改善。
- ⑥ サービス残業根絶。年間総労働時間1800時間実現。時間外割増率50%、休日割増率100%の実現。
- ⑦ 50歳以上の在職条件と60歳以上の賃金・労働条件の見直し。
- ⑧ 非正規社員の正社員化。グループ会社賃金・労働条件改善。

国鉄新聞に記載されますので、こちらをご参照ください。

国鉄新潟では、委員の発言について簡単にまとめ記載します。不十分などところがあると思います。国鉄新聞に詳しく記載されますのでよろしくお願ひします。



全体の意見

国労運動を維持

○地方ローカル線の環境は厳しい。第三セクター（銀河鉄道）は2016年は2000万円の赤字。線路使用料が減った。（寝台列車の廃止）青い森鉄道は上下分離方式で黒字決算だが青森県から6億円免除されている。自治体の負担が大きい。30年検証・提言実現へ。

国労の名称と組織の現状、発展について、若い世代へ国労運動を継承していく。関連会社、プロパーの労働条件改善と組織化を求めていく。JR30年経過している。エリア本部がそれぞれ交渉を進めていく。各JRとの労使関係は違っている。国労は連合体となっている。

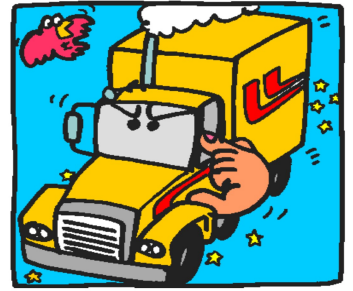
一歩踏み込んだ運動

●組織強化・拡大と組織の1割を拡大目標に取り組んでいる。四国は20年ぶりに1名国労加入があった。一歩踏み込んだ運動、職場の問題解決には分会活動が重要だ。

多くの仲間への声掛をする。定年後も組合員として残ってもらおう呼びかけている。プロパー関連会社の組織化を訴えている。

三江線の廃止と事業法を元に戻す運動を進める。四国も同様な状況だ。安全・公共性を守る闘い。検修職場の外注化を止めさせる取り組みを進めている。





ワンマン化が進む

○要員不足と労働環境が厳しい状況だ。車掌、駅員の乗客に対するサービス低下になっている。普通列車のワンマン化が進んでいる。無人駅がほとんどで安全が守られていない。

●18春闘各JRの格差が広がっている。ベースアップ0回答が続いている。具体的な要求を議論し、一律の要求額ではなく各JR会社への交渉を独自でやっていくよう、継続的な議論を。

守る体制の強化

○11月7日、国労加入があった。JRバス社員。旗開きに何度も参加している。バス労働者へ宣伝行動を取り組んできた。バス労働者は退職など欠員が生じている。そのため国労加入により配転させられると考え加入を待った。その後、国労加入となった。管理者の嫌がらせがあった。不当なことをさせないよう会社側、西労に通告し国労加入者を守る体制を強化した。

●総がかり行動・地区労との街頭宣伝、署名行動を展開した。18春闘、賃上げや平和憲法を守る闘いなど議論し意思統一を図った。3000万人署名を成功させる。

○ローカル線を守る闘い、全国ローカル線の減便、減車で利用しにくく廃止に追い込んでいく状況だ。全国的な闘い、利用者や自治体など含めた闘いなどを進めていく。



単独で維持できない

●北海道の現状、JR北海道は単独で路線を維持できない。線路を廃止している。存続についても進んでいない。昨年、道議会で社長は地域、自治体へ協力を訴えた。北海道本部は情勢分析と意思統一を図っている。話し合いのテンポが遅い。財政支援路線問題など国への責任が多く出されている。

○18春闘統一闘争、要求額について12000円では北海道ではかけ離れている要求額だ。16年連続ベア0を打破していくこと。JR各社ごと

の要求額を設定する。

組合活動を 目に見えるものに

●職場は退職者が多く要員が足りない。エルダーの現職出向が減っている。年休が取得できない。現場は助勤対応でぎりぎりの状況だ。駅の要員配置について要求し団交へ。他労組も含めた取り組みを進めている。要員闘争で職場活動の活性化を図り組合活動を目に見えるものにしていく。

○18春闘職場要求の前進、地域春闘、スト体制を確立することは団結を固め団交を強化する。貨物の19年連続ベア0の打破。重要な春闘の課題だ。統一した闘い、全国的なスト体制の前進。団結して闘う。

●18春闘JR30年の検証・キャラバン行動、地域集会の開催など政党、団体などつながりを深める。それをどう生かしていくのか。鉄道の安全問題など国労の要求と結び付けていく。



○外注化、委託化の実態が厳しい状況になっている。労働条件の改善を求めていく。アンケート調査で春闘の要求額が48000円を超えている。ストを背景とした闘い、組織的な運動を深める。

分会活動の活性化

●ダイ改利用しやすいダイヤ設定を要求。地域経済の低迷、列車の削減。利便性を求めて地域住民へ訴え取り組みを進めていく。

○組織拡大、分会活動の活性化、達成している。長期期間から信頼関係を深める。国労運動に期待して国労加入した。職場に運動がある。問題点を出して訴えている。



春闘行動について

○2018春闘総決起集会
in新潟
3月8日(木) 18時30分～

場所 新潟駅前「ガレツソホール」
(コープシティー花園)

○国労中央総行動
3月6日(火) 10時～

午前中・国会議員要請行動
春闘総決起集会 代々木公園



●現職組合員が石綿・労災認定された。長野工場勤務、車体の解体作業を行っていた。手術を行いその後自宅療養。鉄道運輸機構で手続き、会社は証明しなかったが労貴書へ労災申請、JR東日本は認めなかった。JRは不誠実な対応だった。アスベスト暴露検査を受診すること。この間他労組への拡大につながればと考える。

